

苦手を克服し、得意を伸ばそう！

～令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果より～



一学期に6年生を対象に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省より公表されました。本校では、実施後すぐに職員で自己採点し、自己分析をしています。その後、公表された結果と照らし合わせ、子どもたちの「得意分野」と「苦手分野」を全職員で情報共有しました。

新町小の子どもたちの傾向としては、目的に応じて必要な情報を見つけ出すことは得意です。また、面積の求め方を記述する問題などでも、しっかり筋道を立てて説明することを多くの児童が得意としていることも分かりました。その一方で、多くの情報の中から自分なりにまとめたり、要約したりすることは苦手で、意見を出し合いながら、自分の考えを導き出すことには消極的な児童が多いことが分かりました。しかし、問題を最後まで諦めずに解こうとする意欲は高く、無回答率（何も解答しない）が例年低いという結果も新町小の長所と言えます。

◇調査結果◇

平均正答率(%)	国語	算数
本校	69	71
津市	64	68
三重県	64	69
全国	64.7	70.2

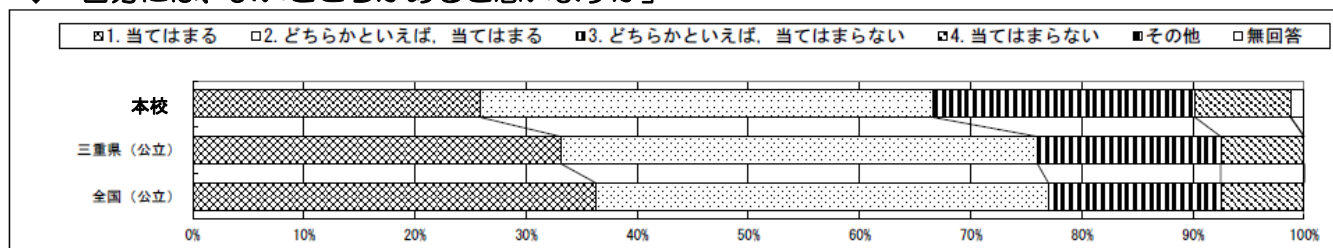
無回答率(%)	国語	算数
本校	2.9	2.5
津市		
三重県	3.7	2.6
全国	4.3	2.6

また、学習状況調査の結果から見てみると、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目が例年と同じで、平均より低い傾向は依然と変わりません。今後も、日頃から一人ひとりの良さを認め合い、自尊感情を高めていく日々の積み重ねを大切にしていきたいと思います。

また、平均より高い結果だった項目は、「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」と「あなたは学校で、コンピュータなどICT機器を、他の友達と意見を交換したり調べたりするために、どの程度使用していますか」でした。新町地区では例年、夏祭りやみかん狩りなど楽しい行事が行われていて、きっとその思い出が子どもたちに色濃く残っているのでしょう。早くコロナが終息して、多くの地域行事が復活することを願います。

また、日々の学習にタブレット端末は欠かせない存在となりました。しかし、タブレットの活用はあくまで一つの手段であり、目的に応じて、本で調べたり、ポスターや新聞などを手書きしたりする活動も今までと変わらず大切にしていきたいと思います。

◇「自分には、よいところがあると思いますか」



◇「学校でICT機器を他の友達と意見を交換したり調べたりするために、どの程度使用していますか」

